

Tochio

どちよ。 彩

Saijiki



時記 GuideMap ガイドマップ

(一社)栃尾観光協会

〒940-0233 新潟県長岡市栃尾宮沢1764

☎0258(51)1195 FAX 0258(51)1190

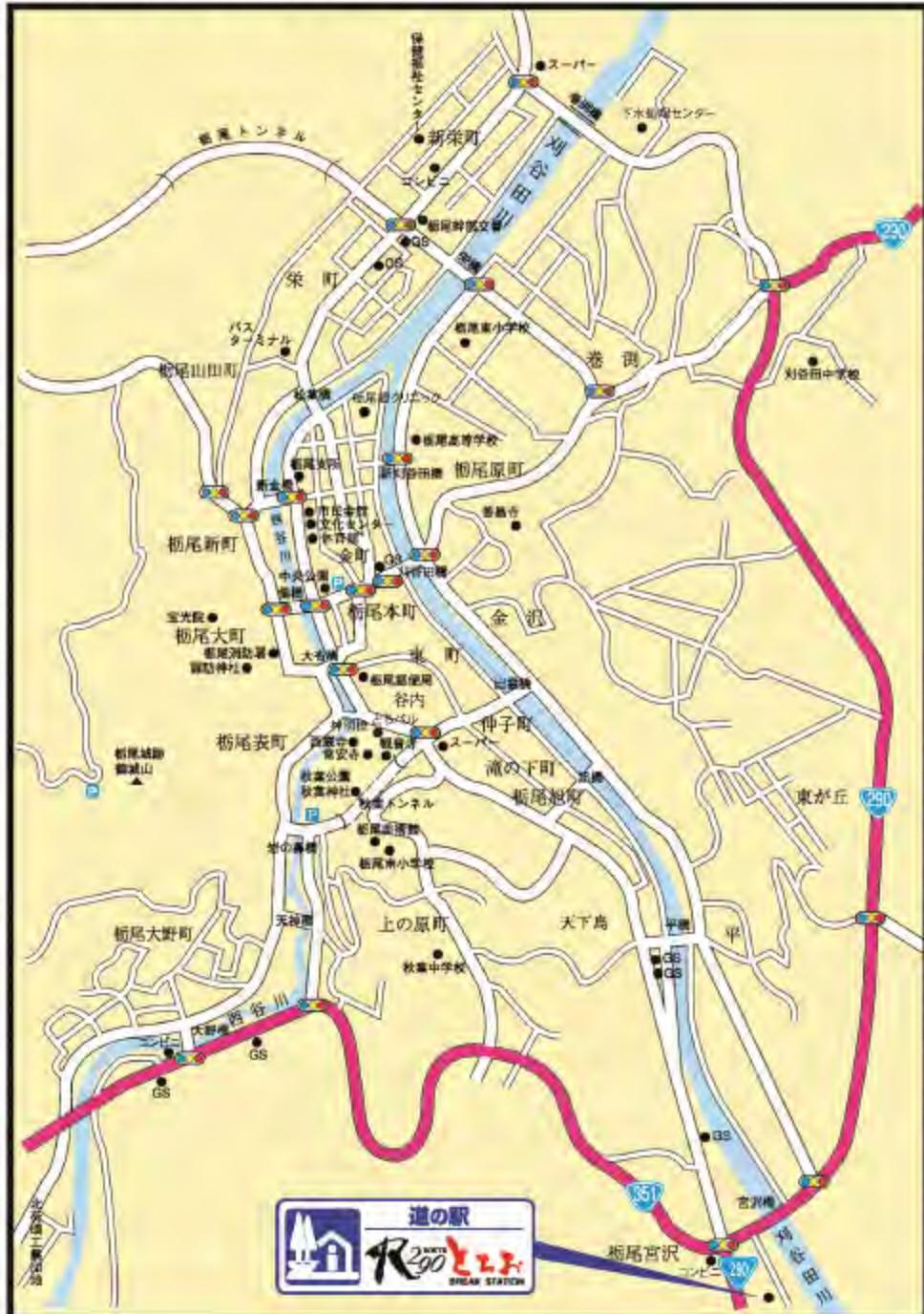
長岡市栃尾支所商工観光課

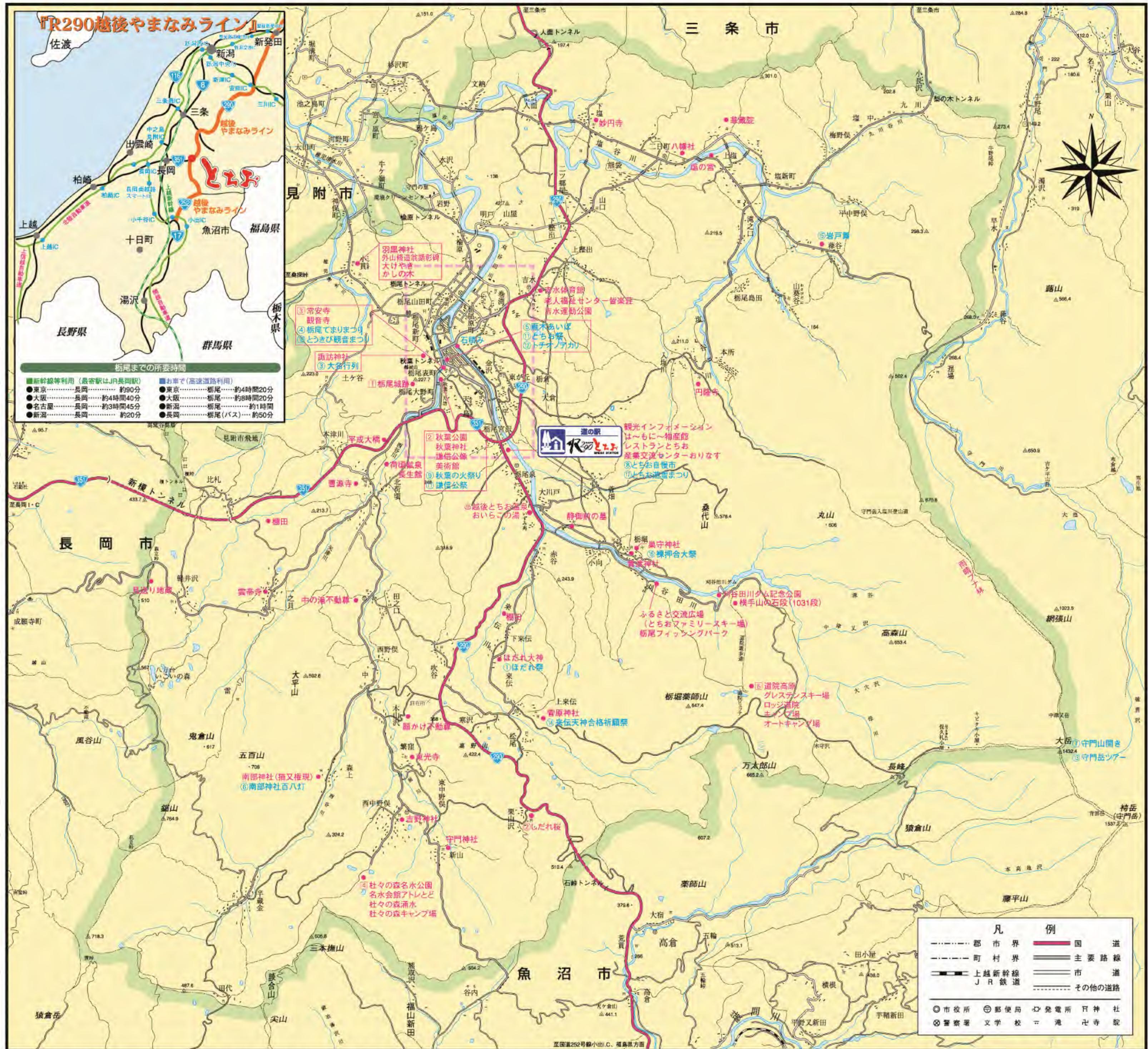
〒940-0298 新潟県長岡市金町2丁目1番5号

☎0258(52)2151(代) FAX 0258(52)3990



■板尾市街地拡大図





この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平22第505号)

1:50,000

1000 500 0 1000 2000 3000 4000m

とちよ 彩時記

Tochio Sajiki

Event Calendar イベントカレンダー

春 SPRING



①ほだれ祭

祭りの名称である「ほだれ」とは「稻の穂が垂れるように」という意味で、五穀豊穣、子宝や良縁、子育て、室内安全などを祈願する祭りです。御神体は高さ2.2m、重さ600kgの日本一大きい木彫りの男神像で、この祭の時だけ祠から出され初廟を乗せて神輿のように担がれます。1,000人を超える参加者が御利益にあやかろうと御神体の手を延ばします。

■会場:長岡市下米伝(しもらいでん)地内 ■期日:3月第2日曜日午前11時~ ■交通:道の駅とちおかからクルマで15分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)



②しだれ桜

栗山沢(くりやまざわ)集落にそびえるしだれ桜は樹高約15m、幹周2.25m、樹齢110年を超え、春の満開時には見事な姿を見せてくれます。この桜は、もとは仙台藩の奥庭にあった御止桜でしたが、元禄戦争当時、仙台砲兵隊に所属していた栗山沢の村人が、種子を持帰り育てたものです。

■交通:道の駅とちおかからクルマで25分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)



③諏訪神社春季大祭・大名行列(すわいんじや しゅんき たいさいだいみょう ぎょうれつ)

柄尾の春の風物詩である諏訪神社の大名行列は「大名行列」でありながら大名の姿ではなく、神官、御神輿を中心にして左右大臣を頭に、鉄砲・弓などのほか、天狗、神楽など神事と公達(きんだら)、武士、庶民が一体となった形を取ります。市街を練り歩いた行列が再び諏訪神社に戻ると神輿・太鼓などの「舞い込み」が始まり、勇壮・莊厳な祭りの最後を締めくくります。また、大祭前夜から谷内通りに露店が並び、おおいに賑わいます。

■会場:柄尾市街(谷内通りなど) ■期日:4月29日 ■問合せ:柄尾大名行列保存会(諏訪神社)(0258-52-2806)・柄尾観光協会(0258-51-1195)



④柄尾でまりまつり

かつて袖の産地だった柄尾では、古くから袖の残り糸を利用してたまり作りが盛んでした。孫がてまりのように丸々と成長するようにと願いを込め、節句や慶事のお祝いに祖母から母へ、母から娘へと現在まで作り継がれてきました。まつりでは製作実演と約3,000個のてまりが展示・販売されます。そのあやかな美しさは見る人の心をとりこにします。

■会場:常安寺 ■期日:5月3日~5日 ■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)



⑤とちお町めぐり 雁木あいぼ(とちおまちめぐり がんぎあいぼ)

雁木(がんぎ)とは、通りに面した家々が自分の土地を提供し合い、家の庇を延ばして造った雪国特有の建築物です。雪が2階にまで達していた時代には道をはさんだ雁木と雁木をトンネルでつなげて歩いていました。それぞれの家が自分で建築するため様々な高さ・大きさの雁木が連なり、それは各家々の商売を反映し、独特の景観をつくり出しています。イベント期間中は雁木通りで模擬店や伝統技術体験など、様々な催しで皆さんをおもてなしします。

■会場:柄尾市街(谷内通りなど) ■期日:5月上旬 ■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)



⑥南部神社百八灯(なんぶじんじゃひゃくはつとう)

長岡市森上の南部神社は別名「猫又神(ねこまたごんげん)」とも呼ばれ、狛犬と並んで立つ猫の石像が目を引きます。これは、蚕(かいこ)を荒らすネズミを退治する猫を祀ったものだとも言われ、この猫が招き猫に通じる事から、商売繁盛、運気上昇にご利益があると言われています。この神社の最大の呼び物は、毎年5月8日夜に行われる百八灯です。南部神社の御加護を頼う信者が神社へ通じる石段の両脇に、1人百八本のウツクを奉納するもので、暗闇で揺れる数千点のロウソクの灯の美しさは筆舌に尽くせません。

■会場:長岡市森上(もりあげ)地内 ■期日:5月8日夜 ■交通:道の駅とちおかからクルマで20分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)



⑦守門山開き(すもん やまびらき)

守門岳は柄岳(はかもだけ)を主峰とし、青雲岳、大岳からなる3連山です。当時は、保久礼登山口と入塩川登山口で参加者に安全祈願の木札が配られ、守門大明神(すもんだいみょうじん)が祀られている大岳山頂で安全祈願祭が行われます。また、柄尾・入塩川の両巣守神社において前祭が行われます。

■会場:大岳山頂 ■期日:5月第4日曜日 ■交通:道の駅とちおかから、保久礼登山口はクルマで50分、入塩川登山口はクルマで20分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

■宿泊案内(市外局番0258) 長生館(北荷頓121-2) 52-2365 惠比仁旅館(谷内2-1-30) 52-2107 福田屋旅館(谷内2-5-4) 52-2129
大倉旅館(東が丘3-10) 52-2473 丁字谷ホテル(新栄町3-2-10) 52-2040 ロッジ道院(道院高原) 58-2120
道院オートキャンプ場(道院高原) 58-2120 杜々の森キャンプ場(杜々の森名水公園) 58-3050 UNE HAUS(民宿・一之見869) 86-8121(順不同)



⑧観光物産フェア とちお自慢市(かんこうぶっさん ふえあ とちお じまんいち)
柄尾名物あぶらげや織物・ニット製品、和菓子、地酒など柄尾の特産を展示・即売し、柄尾を広くアピールするイベント、毎年恒例の累1枚を超える巨大あぶらげの製作実演やファッショニコーナー、体験コーナー、遊びコーナーなどイベント盛りだくさんです。
■会場:道の駅R290とちお ■期日:6月第2日曜日
■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑨秋葉の火祭り(あきばの ひまつり)
火伏せ(火防)の神として全国に信者を持つ、秋葉三尺坊大権現(あきばさんじやくぼうだいごんげん)の祭りです。三尺坊は信州戸隠の人で、越後藏王堂(現在の長岡市柄尾岩野)で修行を積み、飛行自在の神通力を修めたといいます。そのため、柄尾は三尺坊修行成就の地として江戸時代に日本總本廟の称号を与えられています。火祭りは三尺坊の遺徳をたたえ、命日にあたる毎年7月24日に開かれます。炎が静まる頃、善男善女が無病息災、室内安全を願い合掌して火渡りを行います。また、前夜は谷内通りにたくさんの露店が並びおおいに賑わいます。
■会場:秋葉公園 ■期日:7月24日 ■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:常安寺(0258-52-2319)・柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑩とうきび詔音まつり・谷内通り歩行者天国(とうきび かんのん まつりやちどおり ほこうしゃてんぐ)
江戸末期柄尾郷金蔵の折、観音寺住職がとうもろこしを配り、作付けを教え広めた事を忘れないために聖観音の命日にあたる毎年8月10日に無病息災・室内安全の祈祷を行い、参拝者にとうもろこしを配ります。夕方から谷内通り商店街で歩行者天国が開かれ、様々なゲームや催しが行われます。
■会場:観音寺(谷内2丁目)・谷内通り商店街 ■期日:8月10日 ■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:観音寺(0258-52-2424)

⑪とちお祭・謙信公祭武者行列(とちお まつりけんしんこうさい むしゃぎょうれつ)
柄尾の夏を締めくくる、住民総出で楽しむ夏祭りです。ミュージックアトラクション・味のテント村などの「オープニングイベント」で幕を開け、2,000人が「柄尾甚句」に合わせて踊る「大民謡流し」、「みこし渡御」、文化協会による「芸能祭」、酒樽の乗った神輿を力いっぱい引き合う「全日本樽みこし綱引き選手権大会」などが催されます。締めくくりに、5,000発の花火が夜空を彩る大花火大会が行われます。また、とちお祭に合わせて、謙信公祭武者行列が市街地を巡ります。柄尾は戦国の雄将「上杉謙信公」旗揚げの地です。謙信公は柄尾城での6年のうちに数々の武勲を挙げ、越後國主となりました。武者行列の出陣式や柄尾衆鉄砲隊の演武で祭をさらに盛り上げます。
■会場:柄尾市街地(谷内通りなど)・秋葉公園 ■期日:8月下旬 ■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑫秋葉神社と秋葉公園(あきばじんじゃと あきばこうえん)
秋葉神社は火伏せの神様として、全国に多くの信者や末社をもつ秋葉三尺坊威徳大権現をお祀りした神社で、秋葉信仰における「日本總本廟」です。現在の社殿は、弘化3年(1846)の落慶といわれています。安政4年に入って江戸難司ケ谷出身の天才彫師「石川雲蝶」の手により「奥の院」に見事な彫刻が施されました。谷向かいには、謙信公兵の柄尾城跡を仰ぎ見ることができます。秋葉神社の境内は、秋葉公園として四季を通じた憩いの場となり、春の桜、夏の涼風、秋の紅葉、冬の雪景色が訪れる人々の目を楽しませています。公園の一角に像形をされた謙信公の銅像が建立されています。
■場所:長岡市谷内(やち)2丁目 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑬トチオノアカリ
織物の町を象徴する糸綴ランプ約2,000個を雁木通りに並べるほか、秋葉神社をはじめとした市街地に、柄尾地域の子どもたちや住民有志が制作した灯りの作品が設置され、雁木通りが暖かい光に包まれます。どちらも周辺でナイトマルシェも行われます。
■会場:谷内通り周辺・秋葉神社周辺 ■期日:9月上旬
■交通:道の駅とちおかからクルマで5分 ■問合せ:トチオノアカリ/柄尾支所工芸課(0258-52-5827)、ナイトマルシェ/柄尾工商会(0258-52-4191)

⑭守門岳ツアー(すもんだけ つあー)
大白川(魚沼市)から入塩川までの9時間大縱走紅葉ツアーのほか、山の麓柄尾から道院高原までの紅葉トレッキングなど秋の山を楽しむツアーが行われます。また、春には守門岳の「東洋一の大雪庇」を目指し多くの登山者が訪れます。大雪庇ツアーも人気で、滑走・歩行のツアーがあります。
■期日:紅葉9月下旬~10月中旬、春山3月中旬~4月上旬
■問合せ:守門岳(0120-330-773)

⑮来伝天神合格祈願祭(らいでんてんじん こうじく きがんさい)
長岡市上出来(かみらいでん)の菅原神社は来伝天神とも呼ばれ、学問の神「菅原道真(すがわらのみちざね)公」を祀った神社です。「来伝」とは、その昔この地の開墾に着手した日に雷鳴があり、開拓成績の吉祥であるとして、土地の名を「雷出(らいで)」と定めたことが由来だと伝えられています。祭りでは道真公にあやかり、合格を願う大勢の受験生などが参拝に訪れます。
■会場:官原神社 ■期日:11月第4日曜日 ■交通:道の駅とちおかからクルマで15分 ■問合せ:地元連絡所(孫四郎商店)(0258-58-2425)・柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑯温泉後とちお温泉 おいらこの湯
温泉の泉質は、「お肌しつゝり」が期待できるナトリウム・塩化物温泉。衛生面を考慮し不純物をろ過する半循環式、水道水を加えず源泉100%の良質な温泉を提供します。施設には、無料で利用できる足湯もあります。●適応症:きりきず、やけど、慢性皮膚病、慢性婦人病など
■場所:長岡市赤谷179-2 ■交通:道の駅とちおかからクルマで2分 ■問合せ:おいらこの湯(0258-89-8590)



⑰岩戸舞(いわとまい)
約三百年前の元禄(げんろく)年間、村松の殿様が長岡へ向う途中、藤谷(むぐらだに)で休憩する際に披露したのが始まりだと伝えられています。現在では毎年この日、獅子舞が新年のお清めをするため、集落内の各家を巡ります。
■会場:長岡市藤谷集落内 ■期日:1月2日 ■交通:道の駅とちおかからクルマで15分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑱県守神社裸押合大祭(すもりじんじゃ はだかおしあい たいさい)
戦国武將「上杉謙信(うえすぎけんしん)公」が信仰した里沙門天(びしゃもんてん)を、柄尾(とちお)集落内の県守神社に祀り、豊作を祈願したのが始まりと言われています。下帯一本にわらじ履きの男達が長さ1m、重さ30kgの大ローソクを先頭に本堂になだれ込み、「サンヨ! (撤)サンヨ!」「押セセ! 押セセ! 押セセヤイ!」の掛け声で押合い、福札を奪い合う勇壮な祭りです。
■会場:長岡市柄尾 埼守神社 ■期日:2月第2土曜日・午後6時30分~ ■交通:道の駅とちおかからクルマで10分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-52-3521)

⑲とちお遊雪まつり(とちお ゆうせつまつり)
雪に親しみ雪と遊ぶ雪国ならではの催しが盛りだくさんのイベント。巨大すべり台や特設イベント、雪上競技会、あつた鍋料理などが並ぶグルメテント村など親子で楽しめます。また、前夜祭として、1,000個の雪洞にキャンドルを灯す「雪灯りまつり」が催されます。幻想的なムードの中打ち上げられる雪中花火も必見です。
■会場:道の駅R290とちお ■期日:2月第1日曜日とその前日 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

⑳とちよ 名所めぐり

①柄尾城跡(とちお じょうよせき)
群雄割拠の戦国時代、越後の虎と呼ばれて諸公に恐れられた名将「上杉謙信公」は、多感な青年期を柄尾で過ごしました。天文12年、越後平定のため柄尾城で挙兵した謙信公は、やがて越後の國主となり、関八州の大主へと顎をあげてゆきます。柄尾城は、南北朝時代に北朝の總帥足利尊氏の命を受けて柄尾に入った芳賀禪可が築いたといわれ、山城完成期の根小屋式城郭の姿をとどめています。本丸からの眺望は新潟県の最勝百選に選ばれた絶景で、城跡までは林道や遊歩道が整備され、市内外からのハイカーや歴史ファンの散策する姿が絶えません。
■交通:柄尾市街から徒歩20分 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

②秋葉神社と秋葉公園(あきばじんじゃと あきばこうえん)
秋葉神社は火伏せの神様として、全国に多くの信者や末社をもつ秋葉三尺坊威徳大権現をお祀りした神社で、秋葉信仰における「日本總本廟」です。現在の社殿は、弘化3年(1846)の落慶といわれています。安政4年に入って江戸難司ケ谷出身の天才彫師「石川雲蝶」の手により見事な彫刻が施されました。谷向かいには、謙信公兵の柄尾城跡を仰ぎ見ることができます。秋葉神社の境内は、秋葉公園として四季を通じた憩いの場となり、春の桜、夏の涼風、秋の紅葉、冬の雪景色が訪れる人々の目を楽しませています。公園の一角に像形をされた謙信公の銅像が建立されています。
■場所:長岡市谷内(やち)2丁目 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

③常安寺(じょうあんじ)
上杉謙信公によって寄進された古刹です。父長尾景の命により、中越鐵撫のため柄尾城に入城した謙信公は、当時柄尾にあった名刹「瑞巖寺(ずいりんじ)」五世門主和尚の薰陶をうけ、正義を重んずる清廉な人格を形成しました。天文16年(1547)8月、すでに越後守国となっていた謙信公は、恩門内閣和寮のため自らが開基となって常安寺を創建されました。七堂伽藍を配した豪華なたたずまいだったそうですが、火災により惜しくも焼失し、元禄14年(1701)に再建されました。現在の本堂は、昭和54年に建てられたものです。常安寺の背後の丘陵地は、秋葉公園として市民の憩いの場となっています。常安寺には、謙信公直筆による五言詩句や兜の前立てなどの遺品が残っていますが、現在は文化財に指定され一般公開されていません。
■場所:長岡市谷内2-7-7 ■問合せ:柄尾観光協会(0258-51-1195)

④杜々の森名水公園(とどのもり めいすいこうえん)
柄尾地城南部の西中野侯地区と魚沼市との境界付近は、杜々の森と呼ばれ、昔から神の棲む靈地として村民に敬われてきました。この森は、水源涵養林や干害防備林として保護され、今も、ブナやホオノキ、ケヤキなどの古木が群立し、アオバズクやブッポウソウ、アカシヨウビンなど多くの野鳥の生息が確認されています。森の側から湧き出る清水は、昭和60年環境省から全国名水百選に選定されました。「おいしい水」を求め、年間を通じて水汲みに訪れる人が絶えません。公園内のレストラント「銘森(めいり)」では、名水で炊くコシヒカリと名物あぶらげの定食やよもぎうどんなど山村ならではの味を楽しめます。
■場所:長岡市西中野侯地内 ■交通:道の駅とちおかからクルマで25分 ■問合せ:杜々の森名水公園アトレとど(0258-58-3050)

⑤道院高原と守門岳(どういんこうげん と すもんだけ)
標高1,537mの守門岳を主峰に青雲岳、大岳、中津又岳が一大山系を構成する越後屈指の名峰「守門岳」は、ブナの原生林や高山植物、冬の大雪庇など、一年を通して様々な表情を見せる登山者に人気の高い山です。守門岳中腹の道院高原は、守門登山の重要基地であるとともに、大人も子どもも遊べるアウトドア施設です。事前の予約で手ぶらで野趣満点のバーベキューを楽しむことができます。広い敷地の散策や、親子で自然観察・天体観測など楽しみ方もいろいろ。フリーキャンプ場とオートキャンプ場はゆったりとした作りで、団体やグループでも楽しめ